

第196回 番組審議会

1. 日 時 平成22年10月12日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 13名
出席委員数 9名(欠席委員数 4名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)

三浦 宏(副委員長)

—以下50音順—

斎藤 純

斎藤 雅博

東海林 千秋

菅原 正二

中原 祥皓

藤原 保雄

八木橋 伸之

○ 会社側出席者(6名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)

小原 忍(専務取締役)

藤澤 利憲(常務取締役)

藤原 銀司(取締役営業局長)

松舘 守(めんこいエンタープライズ 制作部 部長)

高橋 一彦(めんこいエンタープライズ 制作部 副部長)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題 山・海・漬 敬老の日目前企画

「ハッスルじいちゃん！パワフルばあちゃん！」

平成22年9月4日(土) 18:30~19:00 放送

5. 議 事 概 要

今回は9月4日に放送した『山・海・漬 敬老の日目前企画 「ハッスルじいちゃん！パワフルばあちゃん！」』について審議しました。

出席した委員からは「元気なお年寄りたちからパワーをもらった」「敬老の日に合わせてタイミングのいいテーマだった」「若い工藤アナウンサーのリポートは好感がもてた」など、番組を評価する意見がありました。

また一方で「どのような基準でお年寄り4人を選んだのかよく分からなかった」「どんな食事をしているかなど長寿の秘訣も紹介して欲しかった」「お年寄りの家族や普段の生活の様子も見たかった」などの意見がありました。

6. 議事

○事務局

それでは、ただいまより第196回番組審議会を開催致します。

本日ご欠席の委員は、久慈委員・村上委員・役重委員・吉田委員の4人です。また、めんこいテレビの前田も欠席です。

今回の議題は、9月4日に放送されました『山・海・漬 敬老の日 目前企画「ハッスルじいちゃん！パワフルばあちゃん！」』です。

中村委員長、よろしくお願いいたします。

○中村委員長

それでは議事に入ります。松舘さんと高橋さんから、今回の番組の背景などについての説明や感想をお願い致します。

○松舘部長

今回の議題は番組審議会で何度も取り上げられています「山・海・漬」という毎週土曜日、

夕方のレギュラー番組です。番組が始まったのは96年10月ですので、14年続いているめんこいテレビの中でも長寿番組のひとつです。放送回数もこの回が597回で、ちょうど来週の10月23日の放送で600回を迎える予定です。内容としてはグルメであったり、旅であったり、アナウンサーのチャレンジ企画であったり、文化遺産を紹介したりと毎回違ったテーマで放送しております。

今回のテーマのお年寄りという企画は、今までなかった内容です。実は山海漬の視聴者層でお年寄りが占める割合というのは高く、我々もいつかお年寄りをテーマにした企画をやりたいというのは常々考えていました。そういう意味では満を持しての企画だったのですが、実際に制作を進めると取材対象がお年寄りという事で、いろいろと苦労もあったようです。内容に関しては実際に制作を担当しました高橋からご説明いたします。

○高橋ディレクター

今回は、9月20日の敬老の日になんで岩手県内のハッスルでパワフルなお年寄りを紹介して、元気をいただくという企画でした。今回4組にご登場いただきましたが、この選定が一番大変部分でした。80歳、90歳の今でも現役で仕事や趣味に励んでいる方が多くて、どの方を取材しようか大変迷いました。

テニスの方は70年以上続けてテニスを楽しんでおられ、90歳を過ぎても頑張っている姿に驚きました。ボウリングの方は90歳を目の前に、健康のためにボウリングを始めたということなので、こちらはそのパワフルさを取材しました。馬と共に人生を歩んでいる70代の方は、今回のラインナップの中では若かったのですが、盛岡市内で今でも馬と共に暮らして、山から木材の運搬作業をしていると聞いて取材しました。今回は時期が合わなかったため、実際の作業は取材出来ませんでしたが、馬に対する思いが伝わってきました。神子田(みこた)の朝市では、お年寄りの元気な姿と共に、暖かな人情のようなものを出せればと思い、紹介いたしました。

今回、元気でパワフルなお年寄りばかりだったので、リポーターはそのパワーに対抗するべくフレッシュな若手アナウンサー、元気な工藤淳之介を起用しました。それが今回どのように委員の皆様から見られたのか、本日はご意見をいただきまして、今後の番組作りに生かしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○中村委員長

それでは委員の皆様からご意見、ご感想を伺っていきたいと思います。

藤原委員からお願いします。

○藤原委員

山海漬はいつも楽しみにして見ていて、続けて欲しい番組です。私は落ち着いた声のナレーターの方が好きです。素材はいろいろで、取り上げるテーマによって違うのでしょうけれど、全体のトーンとして非常に落ち着いてゆっくり見られる番組という印象をもっています。ぜひ、このまま続けていただきたいと思います。

今回の番組で、タイトルの通りの元気なお年寄りを見て、ビックリしました。テニス、ボウリングの愛好家には、年をとった方がこんなにいるんだと思った視聴者の方も多いに違いありません。

個人的にはチャグチャグ馬コのお年寄りの人と、朝市のおばあちゃんが盛岡らしくていいなと思いました。ただ、気になったことは全員盛岡の人だったことです。いろんな事情はあったかと思いますが、もう少し盛岡以外の人も紹介できれば良かったのではないかと思います。

出演したお年寄りのいろいろな言葉が良かったです。「馬が家族だ」とか、「お客さんからパワーをもらっているんだ」とか言葉自体に響いてくるものがあって良かったと思います。

最後に、お年寄りの問題をテーマとして取り上げる時に、今回のような明るい話題は勿論けっこうなのですが、今いろいろな問題が出ていますよね、無縁社会とか。他人事ではない問題もありますので、余力があった時でけっこうですので、そんなちょっと固めの番組も見たいという感想をもちました。

○中村委員長

それでは、斎藤純委員お願いします。

○斎藤純委員

いい番組だと思いました。家内と見たんですけれどお互いに「見習わなくちゃな」と言いながら見ました。年配の方を取り上げたのは初めてだったということでしたが、それもお話を伺って意外だったなと思いました。

出演者の情報源ですが、お店に出ている人は見て分かっていますけど、どうやってこの人

たちを見つけたのか気になりました。

僕たちが画面で見たのは、あの方たちの今までの生活というか、努力の結果の部分なんですよね。せっかくあんなに元気な先輩たちに登場してもらっているんだから、どういう生活をしてきて、あるいは何か普段の食事の秘密とかを紹介してもらえれば、僕も大いに参考にしたいと思っています。

ボウリングをするご老人ですが、ボウリングは下半身をすごく使うので凄いなと思いました。工藤アナには「ピンを見ないで矢印の右から3番目を狙って投げるんだぞ」と教えていたと思いますけど、それで急にあのように当たるようになって良かったと思いました。馬で木を切り出して運ぶことを何と言いましたか？（高橋D：地駄引きです）その地駄引きをしている遠野の人も、別の番組で紹介されていましたね。未だに観光用ではなく実際にやられているのを知っている人が少ないと思うので、それもいいと思いました。

○中村委員長

それでは、菅原委員お願いします。

○菅原委員

神子田朝市というのがありましたね。あの場所が分かりませんでした。盛岡の人は皆知っているから説明しなかったのだろうけど、行きたいと思ったわけです。地図をちょっと出すとか、朝何時から何時まで、何曜日。いつ行ってもいいのかとか、紹介して欲しかったです。具体的にすぐにも行ってみようと思ったけれど、分からないので、さっき審議会の前に、ホテルのコーヒーショップの人に頼んで、インターネットで調べてもらって全部解明しました。なぜ、あの場所を今まで目撃できなかったのか残念です。朝早く5時からやっているようなので、それで分からなかったのでしょうか。地元の人には知っているのですが、私のように知らない人には説明が欲しいです。あのラーメンは私好みでちょっと食べに行きたいと思いました。車の地図の案内でも感じるのですが、地元の人が地図を作ると、よそから来た人には分からないことがあります。地元の人が当然分かると思ったちょっとした分かれ道で、大きく逸れたりしますので、全く知らない人のことも考慮した方がいいです。

番組は、皆さんお元気で結構という感じでした。これはちょっと違う話しになりますが、年をとってあまり体力を誇示するのも品がないかなと私は思います。もっと味のある年寄りもおりまして、縁側に座って含蓄のある哲学をしゃべるとか、そういうお年寄りもけ

っして侮れないと、私は申し述べておきたいと思います。

○中村委員長

それでは、八木橋委員お願いします。

○八木橋委員

番組自体は非常に面白かったのですが、いろいろ出てきたのでコメントしにくい部分もあります。いろんなお年寄りが出ていて、パワーをもらうという面では良かった。地元の人が知っている人が出ていて、知っている場所が出て、地元の人が見て面白い。そういう作りということで見れば面白かったのかなあという気がします。

何であの4人のお年寄りを選んだのか？というテーマがよく分かりませんでした。1回で終わらせないで、例えば今年はスポーツ篇として、テニスとボウリングが出てきたので、その他をゴルフとか水泳とかスポーツでまとめるとか、神子田のおばあちゃんが出てきたので、生涯現役篇でまとめるとか、チャグチャク馬コも出たのでお祭篇・イベント篇でまとめるとか、そういうくくりの方が見て散漫にならなかったのかな、という気がします。

そういう意味で、なぜあの4人なのかという疑問がありましたが、出演された皆さんからパワーをもらったという意味では、委員の皆さんが仰る通りですね。知っている人が出てるので面白いという意味では、非常に地元民としては楽しかったのかな、とは思いますが。菅原委員のコメントにもありましたけれど、知らない人が見たらどうかという問題は残りますので、その辺のテーマを絞った方がいいのではないかと、という気がしました。

工藤リポーター自体は非常に若くて元気があって、お年寄りと対比するという意味では、面白かったのではないかと思います。

○中村委員長

斎藤雅博委員、お願いします。

○斎藤雅博委員

登場した方は全て高齢の方ということでしたが、皆さん本当にお元気で、何かこちらが負けそうという感じでした。単に元気ということではなく、それぞれ現役のプレーヤーであるところが素晴らしいなあと思いました。

テニスの及川さんは妖怪と呼ばれているらしいですが、飯岡中学校のコーチも務めているということで、そういう意味でも素晴らしいです。まさしく「人生はテニスと共に」という本を出しているそうですが、私は羨ましさを覚えました。

立花さんのボウリングも凄かったと思います。「趣味をもたないと駄目」とか、「その日その日を大事していくこと」、などと話していましたが、そのポリシーは立派だと感じました。

実は私、先日ゴルフをしたのですが、参加者の中に86歳、大正13年生まれの方がいて、その方からいろいろと伺ったのですが、やはり普段かなり努力をして体力を維持しているということでした。何もしないと衰えます。皆さんかなり努力している方たちなのだろうと思いました。ゴルフの方はエイジシュートを狙っておりまして、残念ながら当日のスコアは90で終わってしまい、非常に悔しがっていました。そういう闘争心も、長生きで元気のためには必要なのかなと感じて、参ってしまった次第です。

現在86歳以上の人は大正生まれだと思いますので、紹介された方々の殆どは大正生まれの人たちです。以前聞いた事があるのですが、大正生まれの人は粗食で育ったのだそうです。それがかえって今の健康にはいいということらしいので、彼らの食生活などもちょっと教えていただければ、長生きの参考になったのかなと思います。

体当たりのレポートの工藤アナウンサーでしたが、パワフルとかハッスルということをテーマにした番組で、すごく実感が伴ったレポートだったと思いました。チャグチャグ馬コの長沢さんも仰っていましたが、皆さん非常に好きでやっていると話されていたと思います。

「好きなことを情熱を持って」と工藤アナウンサーが言っていたと思いますが、全くその通りだと思いました。

いずれにせよ、番組では皆さんが明るくいい笑顔をしていました。非常に元気をいただいたという気がします。そして、彼らの言葉の一言一言に長い人生に裏付けられた名言、至言がたくさんあったように感じられました。敬老の日の前の企画ということで、元気をいただくという意味では、非常にタイムリーで良い番組だと思いました。

○中村委員長

中原委員、お願いします。

○中原委員

私は自らを省みて暗い気持ちで見ました。正直なところ、この種の番組では番審で、よく

「辛口の」という要望があるのですが、こういうのは出しにくいですね。番組に出てくる人たちが皆元気で闊達だということになると、難しいです。構成上、若干気になったことはありますが、全体としてはちょうど時期に合った番組だったと思います。

斎藤雅博委員も言っておられましたが、私も出演者のそれぞれの言葉をメモしながら見ました。拾っていきますと、私には全部当てはまらない立派な言葉なので、これは私の参考にはならないけれども、参考にされる視聴者は多いだろうなと思いました。元気で真面目にやり通すということは、私には考えにくいことではあります。年は考えたことはないと言われた方は言っておられましたが、誕生日が来るとやはりふと思い出すものです。

90・80・70歳代それぞれの年代の出演者から、「クヨクヨしない」とか、「楽しむこと」、「好きだから」、「楽しいから」という言葉がありましたが、やはり生活の中から出てくる言葉には嘘はないと思います。

最初に出てきたテニスの及川さんはけっこう知られた人なんです。非常に運動量が多いのがテニスです。あれを長く続けるには、よほどの粘りというか、体力そのものよりも大変な何かをやっているのだろうなと思いました。

この番組を見て何か物足りないと思い、いろいろ考えてみたのですが、やはり家族、家庭の匂いがまるっきりないですね。例えば高齢のおじいさん、おばあさんに対して、曾孫あたりからの一言「長生きしてね」とか、家族からの「もういい加減やめろ」とか、そういった家庭でのじいちゃん、ばあちゃんへの励ましの言葉など、短いけれども何か一言欲しかったと思います。奥さんとかご亭主ではなく、お孫さんや曾孫らの言葉を引き出して「じいちゃん頑張れ」「ばあちゃん頑張れ」といったような雰囲気はちょっと欲しかったなと思いました。

先ほど、どなたか委員の方も仰いましたが、高齢者の時代になって、非常に不遇で社会から疎外された人たちや、自ら離れていく人たちがいっぱいいます。そういう意味からすると、ご夫婦で朝市にいる方など、番組で紹介されたような方々がいるということは、それだけを見ればちょっと元気付けられたという思いがしました。こういった「良かった、良かった」という部分と、その逆の部分もちょっと頭に入れて見るという意味では、啓発になったのではないかと思います。

敬老の日を前にした番組でしたが、いい面も悪い面も含めて、先ほど私が言ったような問題が全県下にあるとすれば、盛岡だけの紹介というのは、見る側にとってはちょっと引っかけたのではないかと思います。

○中村委員長

では、東海林委員お願いします。

○東海林委員

70代の方たちが若く見える、というのはすごくいい番組ではないかと思いました。70代の方が若く見える番組というのは、そんなにないじゃないですか。そういう意味で、こういったご年配の方を取り上げるということは、とても意義のある番組なのではないかと思いました。

それぞれの方の座右の銘というか元気の秘訣というものを、それぞれ4名の方のところでテロップで出させていただきました。「負けず嫌いな方がいいのかな」とか、「趣味を持たなければ駄目」などと出たりすると、それが若い方へのメッセージになるのだと思います。

なぜこの4人なのかという部分が、たぶん物足りなさとして残るとすれば、そこだと思います。他の委員からも出ていましたが、共通点というか、こういう観点で4人を選びましたというものがなかったです。例えば年齢的に今回は90代以上の方をポイントに選びましたというのであれば、70歳の方だけがちょっと違ってきます。4名の方は盛岡及び近郊の方だったので、盛岡ではない他の市町村の方たちは、なぜあの人たちばかりなのだろうと思うかもしれません。ただ、人選は難しいので、たくさんいらっしゃる90代以上のご年配の方々の中から、30分の枠の中で4人しか選べないとなった時に、どうやってこの4名を選んだのだろうということは、ディレクターの方にお聞きしたいと思ったことのひとつでした。

いろいろな形で情報網を駆使して4名の方々を選ばれたと思いますが、もしかしたら番組が終わった後に、この人も出せば良かったのにとか、こういう人がいるんだけどとか、そんな情報が寄せられる可能性もあります。今後、似たようなご年配の方たちを大事にするような番組をさらに続けられるのであれば、最初の取っかかりの番組として、そのきっかけの糸口になるのかなと思いました。

私は4人のうち、朝市のおばあちゃんは良く知っています。菅原委員、本当にあそこのラーメンは美味しいんですよ！ 最後まで飲み干せるくらいの朝にピッタリのラーメンです。あのおばあちゃんはいろんなお話をしてくれるんです。ついつい「お年はおいくつなんですか」ラーメン食べながらカウンターに座ってお聞きしたくなりますし、そうするとおばあちゃん、ミヨさんもいろんなお話をして下さいます。私も「ミヨさんはここの看板娘ですね」と申し上げたことがあります。ミヨさんのように、お仕事もしていらっしゃって年齢もいい

形で重ねていらっしゃる方を、どんどんテレビで応援してほしいなと思います。

盛岡ばかりではなく、久慈に行っても一関に行っても、きっとそれぞれの看板おじいちゃんおばあちゃんがいらっしゃると思うので、そういう方たちも紹介してほしいと思いました。

○中村委員長

三浦副委員長、お願いします。

○三浦副委員長

アナウンサーは工藤さんとおっしゃいましたか？ 最初にご紹介ありましたが、若いというだけではなく、素直で感じが良かったなと思いました。わざとらしくない素直さというか、印象がすごく良かったです。非常にお元気なおじいちゃん、おばあちゃんの紹介だったんですけど、逆算すると大体一番いい時代に、戦前、戦中、戦後と一番辛い大変な時代を過ごしておられます。もし人数を絞れば、ご苦勞をされた方々の若い時から今に至るまでの人生の“ひだ”というか、人生の奥深さが伝わったのかもしれないと感じました。

先ほどから委員の皆さんのお話に出ていましたように、非常に印象深い言葉が多く、また上手にその言葉をうまく引き出しておられる。その印象深い言葉はよく頭に残っていて、非常に良かったと思います。

テニスにしてもチャグチャグ馬コにしても別の形で興味、関心を引き出す可能性があるのかなあと思いました。チャグチャグ馬コの馬は誰がどうやって育てているのか？とか、そうした別の関心を呼んでくれそうな感じがしました。神子田の朝市はいったいどうすれば行けるのかなど、そうしたことを含めて観光的な面での関心も呼べたのではないかと思います。そういった意味で、別な効果も非常に期待できたのではないかと思います。

余談ですが、他局の番組で、100歳を過ぎて活躍する人を紹介する番組がありました。私どもの会社のOBで、100歳を過ぎても電柱の街路灯を町内会から頼まれて交換しているという素晴らしい人がいまして、私どもは何遍もそのことを紹介してくれないかと思っていました。テレビ、新聞でお金をかけていくらCMを打つよりも、ああいうおじいちゃん一人を紹介してくれるだけで、企業イメージが大変高まります。絵の凄さがあると思っています。

今回紹介されたお年寄りの活躍する姿というのは、テニスにせよ、朝市にせよ、チャグチャグ馬コにせよ、こういった方々が世の中を支えているんだというような、別な効果が出てきて、非常にいい番組だったという感想をもちました。

○中村委員長

全体的には4人のお元気な方々、私からすると元気過ぎているのですが、それぞれが「さすがだなあ」というような生き方をされていて、「さすがだなあ」と思う経験に基いた言葉が皆さんの口から出ていました。そういう意味では非常にいい番組だったと思います。

細部のことを言えばいろいろありました。なぜ4人なのかとか、その背景をもう少し知りたいということがあります。この辺が「山・海・漬」として取り上げる限界かなというのを感じました。できれば4人なんて欲張らずに2人とかにして、もう少し深掘りして、先ほどからいろんなご意見があったところを盛り込んでいった方がいいのかなあと思いました。

番組を見て、私が頭に描いたのは、NHKの10分番組「100歳バンザイ！」という100歳の方を取り上げているかなりの長寿番組です。番組では、その人をいろいろと掘り下げているので、よく背景もわかるし凄いなと思いながら見えています。岩手にもこういう「さすがだなあ」という人がいるのは分かりましたが、もうひとつ物足りなさが残ったのは、その辺かなという感じがします。

工藤アナウンサーはフレッシュで好感度、いい感じを受けました。ぜひ活躍してもらいたいと思います。ただテニスは本当に負けたのか、本気でやったのか？わざとミスった演出なのかとも思ったりしました。お年寄りを敬うばかりで、若干遠慮とか、なにか言葉は悪いですが、卑屈にしているような感じを受けました。もっと堂々としても良かったのではないかと思います。立花さんとのボウリングは、一所懸命教えてもらったから上手にできたというのがあるかもしれませんが、割と互角にやっていたという感じがします。全体的にどの方とお話をするのにも、一歩引き過ぎているという感じがしたので、もっとせっかく若いのだから堂々とぶつかった雰囲気の方が、年配の方に対する若者という対照が出たのではないのでしょうか。ただ番組を繋いでいるというのではつまらないという感じがしました。

非常にいい番組ではあったのですが、岩手にもこういう方がいるとなると、もっと他にもいないだろうかと思いました。逆の見方をすると、こういう元気な人とは逆のもっといろいろな難しい問題を抱えているお年寄りもいるのではないかと、いろんなことを感じさせられました。ひねくれて見ると、このようにずっと並べて「じゃ、何を言いたいのか、この番組は」ということもあります。そこら辺が「山・海・漬」で取り上げる限界かなという感じがします。そこをもう少し深掘りするか、あるいは別な形でもう少し取り上げていただけると見応えのあるものになったのかもしれない。

神子田の朝市は私も知らなくて、今度行きたいと思っています。工藤ミヨさんを取り上げていましたが、あそこで商売をしている年配のおばあちゃんたちが皆いいですね。あそこだけ取り上げもいいんじゃないかと思うくらいで、あそこはちょっと短過ぎた感じがしないでもありません。

○中村委員長

委員の皆様、言い残したことや聞き忘れたことなどありませんか？

ないようですので、続いて欠席委員の方からのレポートを事務局からお願いします。

○事務局

吉田委員からレポートをいただいています。

敬老の日の目玉企画としてグッドタイミングの番組でありました。ハッスルじいちゃんというタイトルとぴったりの方々が次々とでてきて、見終わった時の感想はとても元気をいただきました。全国で80歳以上の方が800万人を突破するという、超高齢化社会の中でこうしたお年寄りの方々の、趣味を持つことの大切さなど、紹介されることは大きな励みになることだと思います。

本県でも100歳以上の方が、500人を越えたという聞いておりますが、いくつになっても心身の健康を保って、生き生きと年を重ねていく方々のことを取り上げことに敬意を表します。欲をいえば、こうしたパワフルな人生を送っている方々の、食生活や健康管理など、特に気をつけている事を詳しく触れて欲しかった。

レポートは以上です。

○中村委員長

ありがとうございました。

最後に何か質問やご意見はありませんか？

ないようですので、本日の議事はこれで終了とさせていただきます。

○事務局

中村委員長、ありがとうございました。

今回の審議会の模様は10月30日（土）朝4時30分から「めんこいテレビ批評」として放送いたします。

次の開催は11月9日（火）となりますので、よろしくお願い致します。

それではこれで番組審議会を閉会とさせていただきます。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

8. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成22年10月13日（水） 産経新聞 東北版

* 平成22年10月30日（土）午前4時30分から4時45分まで「めんこいテレビ
批評」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

9. その他の参考事項

特になし